

研究課題名十二指腸乳頭部腫瘍における客観的診断法の確立に向けた後ろ向き研究に関する情報公開

1. 研究の対象

1993年9月以降に当院で十二指腸乳頭部腫瘍の治療（外科的切除・内視鏡的切除・化学療法・緩和ケア）を受けられた方

2. 研究目的・方法・研究期間

本邦の胆道癌診療ガイドラインにおいて十二指腸乳頭部癌の標準治療は膵頭十二指腸切除術とされており、多くの施設でガイドラインに準じた治療が行われている。しかし、胆道癌取扱い規約第6版におけるT1a(乳頭部粘膜内にとどまる)腫瘍とT1b(Oddi筋に達する)腫瘍を比較した場合、リンパ節転移の有無などの進行度で違いが生じていることが明らかになっており、術前診断において確実にT1aの診断が可能となれば、局所治療も許容されるものと思われる。本研究は各種方法(免疫組織学的評価や新規画像診断モダリティ)により切除前の深達度(特にT1aとT1bの区別)の分類が可能か否かを検討することを目的とした。名古屋大学医学部附属病院において診断および治療を行った症例を対象とする。電子カルテより患者の画像所見、臨床経過、血液検査、病理結果所見を含む検査データを調査する。当院で保存されている病理検体に再度追加で免疫染色を実施して診断を再検討する。約200例での後ろ向き検討を行う。承認より5年間の期間を予定している。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療内容、カルテ番号 等

試料：生検や切除にて得た病理標本 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科学

講師 川嶋啓揮 医員 田中浩敬

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65

Tel/Fax:052-744-2602

研究責任者：名古屋大学医学部附属病院 光学医療診療部 准教授 廣岡芳樹

-----以上